

## 「ノーマライゼーションに大事な対話

あたりさわりのない会話しかできず、悶悶としていた私」

経営分野院生・小澤 美紀

修平さん ゆき先生

修平さんのお話をお聞きしながら、ある一人の人のことを思っていました。

その人は現在、私のそばで、看護部に係るデータ管理を行ってくれています。後縦靭帯骨化症という難病を患い、看護師、看護教員という仕事から離れざるを得ない状況となりました。

私が出会ったときには、病気を受け止め、障害を持って生きていく、という思いになれた時（と、ご本人が言ってました）でした。感覚障害、運動障害があり、下半身の感覚はなく、車いすで生活されています。はじめはパートで入職しましたが、仕事ぶりが評価され、体力と意欲もついてきたことから常勤となり、さらに今年度「副主任」という役職にも就くことになりました。

彼女は、「自分はここにいてもいいんだ。自分の居場所がある。」と話してくれました。修平さんがまさしく同じ言葉を口にされていたことで、あらためてこの言葉の深さに揺さぶられました。そして、障害を持っている方に対して、日本はまだまだ優しくないと、デンマークの実際を知り、感じました。

以前テレビで、車いすに乗って空を飛んでいる場面を見ました。感動して、翌日彼女に「空を飛んで！」と声をかけました。すると、「この病気は振動がかなり影響するから、医者から飛行機はダメ、車の運転も追突されたらおしまいだから本当はやめてほしいって言われてる」という答えが返ってきました。

病気を理解せず、安易に言ってしまった自分が情けなくなりました。それからは、当たりこわりのない会話しかしていないことに、自分の中で悶悶と残っていました。

だから、何でも言い合えて、お願いできて、はっきり断ることもできる、修平さんの関係性が心にしみ、彼女にしっかり向き合いたいと強く感じました。「ノーマライゼーションに大事なのは対話」・自分の課題を明確にさせていただきました。

健常者よりもパワフルで前向きな修平さん。元気と勇気をいただきました。ぜひ、「結婚」してくださいね。ありがとうございました。